

# 東白杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年4月 東白杵農林振興局  
（東白杵北部農業改良普及センター）

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
  - 1 子牛セリ市が開催
  - 2 シキミ生産者の農林水産大臣賞等受賞祝賀会が開催
  
- II 主な普及指導活動等の取組
  - 1 地域プランに基づく普及活動 (P 2～3)
    - 1 延岡市農業労働力確保対策協議会担当者会議
    - 2 就農相談の対応
    - 3 令和8年度認定農業者フォローアップ
    - 4 小麦の穂揃い期調査を実施
    - 5 稲作研究会の総会及び研修会の開催
  
  - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P 4)
    - 1 全国茶品評会の取組支援
    - 2 ももの摘果について支援を実施

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 子牛セリ市が開催

16日、延岡家畜市場において、4月期の子牛セリ市が開催されました。

平均価格(速報)は、雌795千円(172頭)、去勢908千円(188頭)で、全平均では、854千円となり、前回(3月)比、約32千円高での取引となりました。

全国的な頭数減少を背景に高値が維持された一方、購買者である肥育農家からは「高値で導入が困難」、「枝肉価格が上がってなく採算が取れない」といった声が聞かれ、肥育農家の経営環境が厳しいことが伺えました。

セリ前の研修会では、振興局から国や県の補助事業についての情報提供がありました。

## 2 シキミ生産者の農林水産大臣賞等受賞祝賀会が開催

21日、北川町柚陸地区の集会場にて、同町のシキミ生産者である小野敬通さんが宮崎県花き共進会で特別賞である農林水産大臣賞の受賞に伴う祝賀会が開催されました。祝賀会には、生産者20名程度、関係者6名が参加し、その功績を称えました。

普及センターから今回の受賞に関して、経営及び栽培技術、地域貢献の取組として評価された内容の概要説明を行いました。祝賀会挨拶において小野敬通さんから、「今回の受賞を糧にさらなる精進に励みたい」との抱負や、ご夫婦での就農からここに至るまでの経緯やシキミ生産に対する思いを話され、これからも地域のリーダーとしての活躍が期待されます。

今後も引き続き地域のシキミ生産を支えていただきますようお願いしています。



祝賀会の様子

# II 主な普及指導活動等の取組

## 1 地域プランに基づく普及活動

### 1 延岡市農業労働力確保対策協議会担当者会議

20日、今年度初めての担当者会議が開催され、昨年度の取組報告及び今年度の取組等について協議しました。

当協議会では、農業用機械オペレータ養成研修、お試し就農(パート採用向け)等による雇用促進及び農福連携の作業見学会等による福祉事業所とのマッチング支援等を行っており、今年度も引き続き、生産者ニーズに応じた各種活動の取り組みや労働力確保対策を進めることとしています。

なお、昨年度、延岡市が(公財)九州経済調査協会に業務委託した農林水産業公社設立等新戦略検討の結果を踏まえて、今後、農業人材育成に向けた仕組みづくりが検討される予定となっています。



担当者会議の様子

### 2 就農相談の対応

28日、延岡市役所にて就農希望者の相談対応を行いました。

相談者は県外在住で、1ターン後に施設野菜での就農を希望していましたので、就農までの流れや活用できる制度や、就農後のライフプランを含めた助言を行いました。相談者は、事前に整理しておくべきことを概ね理解された様子であり、今後、お試し就農による農業体験等を検討していく予定です。

今後も関係機関と連携して就農者の要望に対応し、就農希望者の確保に努めます。

### 3 令和8年度認定農業者フォローアップ

農業経営改善計画の5年目となる認定農業者のフォローアップ巡回を行いました。

- ・13日：畜産1件
- ・15日：複合経営1件
- ・16日：複合経営1件
- ・22日：畜産1件
- ・24日：施設野菜1件

関係機関と連携し、対象者の現状と5年後の目標を踏まえた上で、次期の農業経営改善計画の作成を支援しました。普及センターからは、栽培管理や飼養管理及び販売状況等を含む経営状況を聞き取った上で、課題解決のために何に取り組むのかを具体化できるように助言しました。

今回の活動を通し、各対象者の経営改善に向けた意欲を高めることができたと思われまます。今後も農業者の経営改善を支援していきます。

### 4 小麦の穂揃い期調査を実施

13日、差木野町において、県総合農業試験場と連携し、小麦の品質を高める延岡版施肥技術の実証ほの生育調査を行いました。

延岡地域では、数年前から小麦栽培農家と普及センターで栽培試験を行い、徐々に作付面積は増えています。一方、今年の生育は出穂開花期の4月に降水量が多かったことから、赤カビ病などの病害発生が懸念され、収穫まで気が抜けない状況となっています。

普及センターでは、今後も収量・品質の向上を図るなど小麦の普及にむけた支援を継続していきます。



麦調査の様子

### 5 稲作研究会の総会及び研修会の開催

28日、延岡地域稲作研修会の総会が開催され、令和7年度の活動実績や令和8年度の計画が検討されました。その後、普及センターから「気候変動に対応した稲づくり」と「育苗における浸種期間の確保」、JAみやざき本店生産資材課から「新たな登録農薬の効果」について研修会を行いました。参加者からは、高温障害を回避するための水管理など作業の要点について、適期に実施するよう心がけたいとの意見がありました。

今年の米の収量・品質向上に向けては、関係機関が一体となって巡回や指導を行っていきます。



研修会の様子

### 6 たまねぎのマルチ比較試験における収穫物調査を実施

6日、下三輪の現地にて、生産者2名、関係者1名で機械化体系に係るマルチ比較試験ほ場の収穫物調査を行いました。

現状、延岡で実施している機械化体系のたまねぎ栽培では、無マルチによる栽培を実施していますが、従来の黒マルチ栽培に比べて地温が上がりにくいことから収穫がやや遅れる、収量が低いという問題点がありました。そこで、黒マルチとの収量比較とマルチを張った場合の機械収穫における作業性の確認を行いました。その結果、収量の向上と作業性にも問題はないことが確認できたため、次年度からは機械化体系においても黒マルチによる栽培を生産者と検討していくこととなりました。

今後も引き続き、地域に適した機械化体系の構築を目指して、支援を行っていきます。



収穫物調査

## 2 地域課題一覧に関する普及活動

### 1 全国茶品評会の取組支援

11日及び13日に全国茶品評会の出品茶園において、品質向上を目的とした被覆支援、また21日～27日にかけて出品茶（釜炒り茶）の摘採・製造支援を関係機関と連携して行いました。

全国茶品評会は、毎年開催されており、生産者は産地PRを目的に農林水産大臣賞受賞・産地賞獲得を目指して取り組んでおります。今年は前年の反省を踏まえて摘採方法等を改良し、生産者も満足のいく出来となりました。全国茶品評会は基本技術の集大成であることから、普及センターでは栽培や製茶の支援を専門技術センターや試験場等と連携して取り組んでおり、生産者の技術向上にもつながっています。

今後、製造した出品茶を調整（7月予定）した後、8月末に佐賀県において審査が行われる予定です。



摘採支援の様子

### 2 ももの摘果について支援を実施

22日、北方町蔵田の現地にて、生産者4名、関係者2名で露地ももの摘果の支援を行いました。生産者は栽培経験豊富なベテランですが、今回は摘果作業に来ているパートタイム雇用者への説明をお願いしたいと要請があり、支援を行いました。

はじめに普及センターから、ももの摘果方法の基本的な内容を説明しながら、摘果の実演を行いました。その後は一緒に摘果作業を行いながら、質問があれば受け答えし、確認していただきました。参加者からは、摘果方法をよく理解できたと意見がありました。

昨年は摘果が遅れて商品価値が低い小玉が多かったですが、今後は早めにしっかり摘果を行い大玉生産が期待されます。



摘果時のもも